

平成31年度 自己評価計画書

							石川県立志賀高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	
1 教職員多忙改善 整理・整頓に 努めることにより、 業務の効率化を図る。	① ・教職員の働き方を見直し、より効果的な業務分担と協力体制を築く。	教頭	本校教職員の時間外勤務時間は県の平均レベルではあるが、一部の教職員は多くの業務を負担している。業務を個人に任せず複数人で分担して行うような協力体制が望まれる。	【成果指標】 業務分担を図り時間外勤務の縮減を図る。	前年度と比較して、「効果的な業務分担と協力体制で時間外勤務の縮減が図られた。」と答える教職員の割合が A：50%以上 である。 B：40%～50%未満である。 C：30%～40%未満である。 D：30%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	教職員アンケート（7月・12月）を実施	
2 学力の向上 魅力ある教材および指導法の工夫により、学ぶ意欲を高め学力の向上を図る。	① ・授業の工夫、改善のためICTの効果的な活用に取り組み、生徒の学習意欲を高める。	教務課	工夫を凝らした授業実践（ICTを活用等）により学習意欲が高まったと答える生徒の割合が65%だった。	【努力指標】 基礎学力の向上を図るため、工夫を凝らした授業実践（ICTの活用等）により、生徒の学習意欲を喚起する。	「ICT機器の活用等、工夫を凝らした授業によって、学習意欲が高まった。」と答える生徒の割合が A：70%以上 である。 B：60%～70%未満である。 C：50%～60%未満である。 D：50%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	生徒アンケート（7月・12月）を実施	
	② ・各学年の実情に応じた家庭学習課題を教科毎に出題する。 ・生徒指導課、進路指導課との連携を深め、学習時間の確保に努める。	教務課	昨年の学習時間調査では、家庭学習時間の平均が1時間以上であった生徒の割合は60%であった。	【成果指標】 適切な課題の出題により、家庭学習を継続的に取り組み、学習時間が増加する。	家庭学習時間調査の集計結果が、1日平均1時間以上の生徒の割合が A：80%以上である。 B：60%～80%未満である。 C：40%～60%未満である。 D：40%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	家庭学習時間調査（6月・11月）を実施	
3 進路の実現 進学意欲の高揚やキャリア教育を充実するとともに、個に応じた指導を充実させ進路実現を図る。	① ・保護者や関係機関と連携を深め、個に応じた進路指導の充実を図る。	進路指導課 教育相談課	クラスの中でも基礎力や理解力の違いから学力差が大きい。保護者に対して進路情報を、適切な時期に、適切な内容で提供する必要がある。	【満足度指標】 保護者に、進路について必要な情報が必要な時期に提供されている。	「学校が提供した個別の進路情報に対して満足している。」と答える保護者が A：70%以上である。 B：60%～70%未満である。 C：50%～60%未満である。 D：50%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	保護者アンケート（7月・12月）を実施	
	② ・進路説明会や社会人講座、各種マナー講座、企業見学会により、就職に対する意欲や必要な態度を身につける。	進路指導課	年度当初の進路志望調査においては、自己の進路についての意識が低く、進路未定の生徒がいる。	【満足度指標】 「進路説明会や社会人講座、各種マナー講座、企業見学会等が進路決定のための参考になった。」と答える生徒の割合が70%以上になる。	「進路説明会や社会人講座、各種マナー講座、企業見学会等が進路決定のための参考になった。」と答える生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	生徒アンケート（7月・12月）を実施	
4 基本的生活習慣の確立 心の教育を実践するとともに、基本的生活習慣の確立や規範意識の高揚を図る。	① ・年三回いじめアンケートを実施するとともに生徒全員に面談をする。 ・目安箱を設置する。	生徒指導課	訴えがあった場合は即、いじめ対策委員会を開き協議し対応した。	【満足度指標】 「学校はいじめに対しての取り組みをしっかりと行っている。」と答える生徒の割合が70%以上になる。	「学校はいじめに対しての取り組みをしっかりと行っている。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：70%～90%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	生徒アンケート（7月・12月）を実施	

重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	
		②	・保護者と連携を図り、家庭での携帯電話・スマートフォン使用のルールづくりに取り組んでもらう。	生徒指導	家庭生活で携帯電話・スマートフォン使用のマナー意識が低い生徒が少なからずいる。	【努力指標】 家庭でのルールづくり、それを守ろうと努力することで、携帯電話・スマートフォン使用の規範意識を高める。	「家庭において、携帯電話・スマートフォン使用のルールが守られている。」と答える保護者の割合が A：60%以上である。 B：50%～60%未満である C：40%～50%未満である。 D：40%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	保護者アンケート（7月・12月）を実施
		③	・毎朝、登校指導をする。また、生徒会と連携し、定期的に挨拶強化週間を設定する。 ・全校集会で挨拶の指導をする。	生徒指導	生徒は挨拶をしているという意識は高いが、まだ相手に十分伝わっていない面がある。	【成果指標】 登校時や授業最初と最後に挨拶をしっかりする生徒が増加する。	「生徒は挨拶がしっかりできている。」と答える教職員の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	教職員アンケート（7月・12月）を実施
		④	・日常的な教室の点検や、保健委員による定期的な美化活動により、整理整頓の習慣化を図る。	保健指導	教室は概ね整理整頓された状態が維持できたが、自主的・主体的に実践する生徒はまだ少なく、環境美化や整理整頓が教室以外の場所に広がらない。	【成果指標】 自主的に、教室や身のまわりの整理整頓を実践する生徒が増加する。	「自主的に、教室や身のまわりの整理整頓を実践している。」と答える生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	生徒アンケート（7月・12月）を実施
		⑤	・教育活動のあらゆる機会をとらえて生徒理解に努め、他者を尊重し、思いやる心を育む。	教育相談課	昨年度「私は相手を尊重し、思いやる気持ちを持って接している。」と回答した生徒の割合は84%であった。	【満足度指標】 教職員の声掛けや生徒理解を通じた心の教育により、相手を尊重し思いやる心で接することができる生徒が増加する。	「私は相手を尊重し、思いやる気持ちを持って接している。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80～90%未満である。 C：70～80%未満である。 D：70%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	生徒アンケート（7月・12月）を実施
		5	地域との連携 地域との連携や情報発信に努め、地域から愛され信頼される学校づくりを推進する。	①	・関係機関等と連携した教育活動も充実させ、生徒の学校生活の満足度を高め、保護者の信頼を得る。	総務課	昨年度、「本校に子どもを入学させて良かったと思う。」との問いに対して、「よくあてはまる」と答えた保護者の割合が51%であった。	【成果指標】 「本校に子どもを入学させて良かったと思う。」との問いに対して、「よくあてはまる」と答える保護者の割合が55%以上になることを目指す。	「本校に入学させてよかったと思う。」との問いに対して、「よくあてはまる」と答える保護者の割合が A：55%以上である。 B：45%～55%未満である。 C：35%～45%未満である。 D：35%未満である。
		②	・志賀高だよりやホームページなどの定期的な情報発信により、本校の教育活動に対する理解を深めよう。	総務課	昨年度、本校の教育活動を理解できたと回答した保護者の割合が67%であった。	【成果指標】 学校の様子を外部に積極的に発信する。	「志賀高だよりやホームページなどを利用した情報発信を定期的に行うことにより、本校の教育活動が理解できた。」と答える保護者の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	C以下は具体的な改善策を検討する。	保護者アンケート（7月・12月）を実施